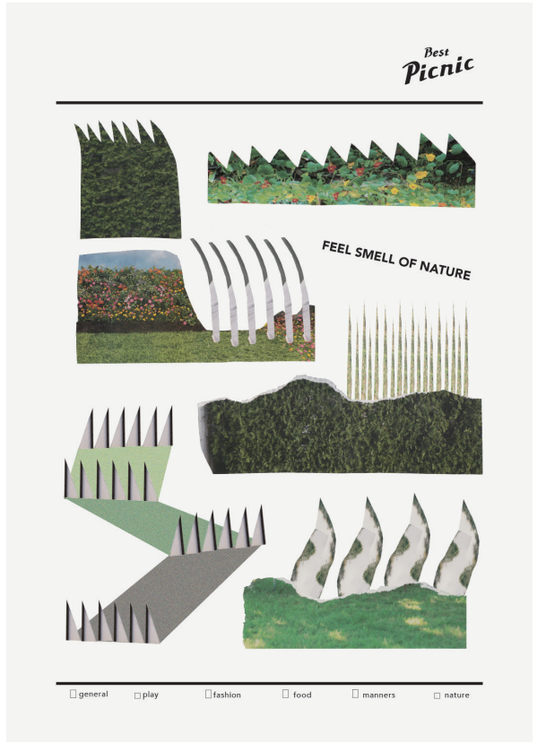
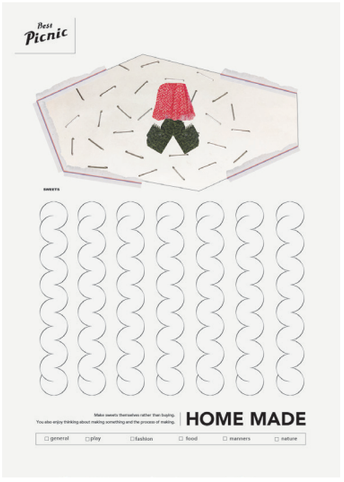
こやまりえこ

KOYAMA rieko | アートディレクター／グラフィックデザイナー
1996年群馬県生まれ。筑波大学大学院 人間総合科学研究科 博士前期課程 芸術専攻在籍。ポスター、ロゴマーク、パッケージ、グッズ制作、イベントビジュアルなど、グラフィックを主軸として広く活動。大学では音楽やファッション、映画、アートなどといったカルチャーの情報発信メディアについて研究を行う。主な受賞歴：世界ポスタートリエンナーレ2021 U30部門銅賞など。

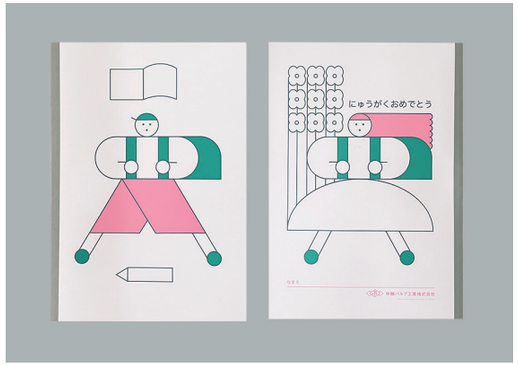
Mail corie557corie@gmail.com





「BEST PICNIC」ポスター／D／2019／Own work

「南国の風」告知ビジュアル／AD+D+PH／2021／あお山ヒュッテ



「自由帳」／AD+D／2019／中越パルプ工業株式会社

「CHRISTMAS CARD」／AD+D／2020／あお山ヒュッテ

「KIRYU CITY 100th ANNIVERSARY」ロゴ／AD+D／2020／桐生市

「TEA TIME GUIDE」リーフレット／AD+D／2021／あお山ヒュッテ

有機的な個性

小山さんとは筑波大学の集中授業でお会いしました。作品を拝見してすぐに小山さんの個性がわかるという具合に、当時から個性が際立っていました。「イラストは1日1枚描いています」とおしゃっていました。好きな世界が明瞭に存在し、その好きを存分に表現出来る、表現者としての才にとても長けている方だと思いました。グループ作品の発表の際、プロジェクターに予期せず写った小山さんのイラストを見て、教室の学生さんたちが「なにあれ、かわいい」と口々に言い、室内がざわつきました。1枚の絵で空気を動かすとは凄い事だなと思いました。若い世代が作りたい世界、良いと思う世界、それは時代と共に移り変わってゆきます。私たち年長者のするべきこととして、若人の翼を折らないこと、年長者の作った規制の枠に若人を押し込めないこと、デザインの未来が有機的に広がってゆくにはそういうことが大切なのだろうな、、、と考えると、なぜか小山さんと小山さんの作品を思い出します。小山さんをはじめ才能を持った若人ががのびのびと制作活動できる社会は、年長者にとっても幸せであると考えるからです。夏の夕暮れ、追越宿舎で大量の蚊に刺されたという思い出と共に。

推薦者｜中本陽子